

自然、自然、私を動かすもの



遅ればせながら、植栽に勤しんでいる。

とはいえ、春先とは一味違った寒暖差に気力、体力を奪われ、活力の低下から気だるさを感じる毎日を過ごしている。

初夏を迎えてからの日中は本格的な夏を思わせ、蠢く命も続々と出現し始めてきた。初々しかった草木の若葉も日々色濃くなり、段々頼もしくなってきた。身体がついていかないから少し待つて欲しい、なんていう私の気持ちとは裏腹に自然は自然に運行し、その歩みを止めることはない。

今季はお稲荷さま周辺の植栽に力を入れるつもりで、縁起の良さそうな黄金マサキの小振りな苗を10本購入した。苗の生長を予測しながら植え込み位置を定め、購入した店の店員に説明された通り御社の周りを囲うよ

うに植え込んでいった。

それなりの作業を終えた途端、初めて育てる植物であるが故か、一抹の不安に駆られた。果たして、しっかりと育ってくれるだろうか…。その時、ある言葉を思い出した。

「自然は、自然がつくるんだよ」。私が東京に居る頃、境内に新しく植樹したモミジが根付いてくれるか心配していた時に、役員の一人在掛けてくれた言葉だ。その方は続けて、「木というものは環境に合わせて生長するものだよ。だけど、人の勝手に植える訳だから、出来ることはしてあげないといけないよ」と、教えてくれた。

自然は自然がつくる、けれども出来ることはしないといけない。

ふと思いついた一言に触発されてマサキの植え方について調べ直すと、よりよい環境を調えるために腐葉土や有機肥料を加えること、植え終えた後にたっぷりと水を注いであげることが分かった。これらはマサキの育成に限ったことではないが、指導者のいない素人の私からすると大いなる教示である。

早速、植え終えたマサキを丁寧に掘り返し、腐葉土と有機肥料を加えて植え込みながら根にしっかりと土が纏わりつくよう木の棒で優しく突く。そして、そこにたっぷりと水を注いでいった。

うん。先程よりも、格別の安心感がある。他に出来ることといえば、日々気に掛けることだろう。あとは自然に自然とおまかせする。

種を蒔き、苗を植えるにはそれぞれ適期というものがある。よくよく考えてみると、植栽も常に変化する自然の自然な運行に合わせて動んでいるだけである。どこまでも自然の掌中に生きているのが私たちで、自然が私たちに合わせている訳ではない。

気だるさを感じる毎日ではあるが、自然の営みに身を委ねてみると不思議な働きを自然に感じることもある。その働きは私の小さな都合を忘れさせ、ものぐさな私の心を突き動かす。さらに働きの正体は何かと考えると、それもまた自然ではないかと思うのである。

あ、つぎは河骨が咲きはじめた(にっこり)。

やっさん